

村上記念病院医療事故の公表について（包括的公表）

朝日大学歯学部附属村上記念病院の理念の一つに「安全で質の高い医療の提供」があります。当院では理念に基づき医療事故防止のため様々な取り組みを行っていますが、この様々な取り組みに加えて院内で発生した医療事故を自発的に公表することが「社会」から求められています。そこで当院では、院内・院外への情報提供や医療の透明性・信頼性を資する場として定めた医療事故公表基準に基づき平成 28 年度に発生した当院の医療事故をここに公表します。

平成 29 年 5 月
朝日大学歯学部附属村上記念病院
病院長 大橋 宏重

期 間 : 平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日

【医療過誤による患者影響レベル 3b 以上の公表件数と概要】

公表件数 : 2 件

概 要		
分類とレベル	事 例	再発防止策
薬物・3b	インスリン製剤（ヒューマリン R）の投与量を「1 単位＝1 ml」と謝って換算し点滴内に注入し、患者に過剰投与（6ml）した。	新人看護師に対して、インスリンを取り扱う知識を確認した。今後の新人研修項目に、インスリンの取扱いを含めることとした。また、看護部と薬剤部とで検討し、病棟保管用インスリン収納袋に「1 単位＝0.01ml」を明記し、インスリン専用シリンジを添付し配置した。そのうえで、ダブルチェック、確認体制の見直しを周知した。
手術・3b	内視鏡的逆行性膵胆管造影（ERCP）を開始後、側視鏡で十二指腸乳頭まで挿入する際、十二指腸球後部で穿孔をきたした。速やかに ERCP を中止し、穿孔部縫縮を行った。	・内視鏡操作を慎重に行い、合併症発生防止に努めることとした。 ・操作時、挿入困難な場合はスコープの変更や術者の交代などを徹底した。